

ウイルス性食中毒の動向と胃腸炎ウイルス研究のトピックス 2026

北里大学大村智記念研究所ウイルス感染制御学研究室
/感染制御科学府ウイルス学教室 教授

片山和彦

ヒトに感染するノロウイルス（HuNoV）による集団食中毒事件は、新型コロナウイルス感染症流行期に一時的に減少したものの、2023/24 シーズン以降はコロナ前の水準に戻りつつある。特に今シーズンは、事件数および感染者数の増加が顕著であり、再び重要な公衆衛生課題となっている。

分子疫学解析の結果、2023/24 シーズン以降、従来の主要流行株であった GII. 4 に代わり、GII. 17 の検出頻度が上昇していることが明らかとなった。2024/25 シーズンには、主要流行株の置き換え現象が観察されており、流行株交代の背景にはヒト集団における免疫の変遷（集団免疫動態）が深く関与している可能性が示唆される。本講演では、HuNoV に対する集団免疫の変化を踏まえ、なぜ主要流行株が置き換わるのか、なぜ数年周期で流行の波が形成されるのかについて考察する。

さらに、ノロウイルスに加え、サポウイルスおよびアストロウイルスといった他の胃腸炎ウイルスの基礎研究の進展についても紹介する。近年、ヒト腸管オルガノイド培養系の発展により、これまで困難であったヒト胃腸炎ウイルスの増殖機構や受容体分子の解明が急速に進んでいる。また、ノロウイルスワクチンの臨床開発や、広域中和抗体の探索研究など、2025～2026 年にかけて注目される研究トピックスについても概説する。

本講演では、これら最新の基礎研究成果を食品衛生管理の視点から整理し、今後のウイルス性食中毒対策、感染制御戦略、ならびにワクチン開発の展望についてわかりやすく解説する。